

# 専務理事方針

菱田 高志

中津川青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を願い運動を展開してきたからこそ、69年という長きにわたり、まちから必要とされ続けてきました。今後、ますます社会の変化が加速する中でも、私たちは時代に先駆け変化を生み出す運動を展開していかななくてはなりません。そのためには、一人ひとりの可能性に目を背けることなく、知恵を出し合い新たな未来を想像し、行動し続けることこそが重要です。その先に、中津川市に新たな価値が生まれ、これまで以上に必要とされる団体になると考えます。

メンバー数が減少する中でも、より良い運動を展開していかななくてはなりません。そのためには、メンバー同士がこれまで以上に手を取り合い、一人ひとりが力を発揮することで、信頼関係を築き上げることが重要です。職種や環境、感性など何もかもが違う私たちだからこそ、目的に真剣に向き合い突き進む中で、たくさんの衝突があるかもしれません。その時、互いの違いを認めることで、私たちは本当の意味での同志になれるのではないのでしょうか。人は人によってこそ、磨かれます。多くの出会い、そして、深い繋がりこそが私たちを青年経済人へと成長させてくれます。そして、本気で議論を交わし互いに分かりあった先に、組織に一体感が生まれ、まちにより大きな運動発信ができると考えます。

中津川夏まつり「おいでん祭」は先輩諸兄姉のふるさとの熱き想いで、“誰の心にも繋がるふるさとのまつり”を目指し、今日まで継承されてきました。これからも「おいでん祭」を次代へと継承していくためには、現状維持ではなく、未来を思い描き行動に移していかななくてはなりません。運営に携わる私たちだからこそ、「おいでん祭」を、このまちに住み暮らす人たちの笑顔のために、進化させることができます。その誰かを想う熱意こそが共感の和を広げ、より多くの方に参加・参画していただける「おいでん祭」に繋がると考えます。

私は青年会議所活動を通して、多くの機会と、厳しくも温かいお言葉をいただく中で、成長させていただきました。私も専務理事として、メンバーの一人ひとりの可能性を信じ、発展と成長の機会を提供するとともに、メンバーの成長を願い真摯に向き合ってまいります。

## <事務局>

渉外業務においては、誰のために行っているのかを常に考え、仲間との繋がりを感じられ

る価値ある時間となるように心がけていただきたい。また、会務業務においてはLOM全体でデジタルツールの使い方を統一するとともに、ルールの徹底と参加しやすい環境作りを行っていただきたい。

<まつり特別委員会>

正副委員長には、目指すべき方向を明確にし、様々な人を巻き込んでいただきたい。そして、メンバー一人ひとりが「おいでん祭」に当事者意識をもって臨めるようにしていただきたい。